

# News Letter

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

令和5年6月

雨とアジサイの季節、6月。皆様おかわりなくお過ごしでしょうか。さっそく Newsletter 第63回配信です！ どうぞお楽しみください。

## 【診療科紹介 臨床検査部】

自治医科大学附属病院臨床検査部についてご紹介いたします。大学では検査部医師は「臨床検査医学講座」に所属しています。

臨床検査部は「検体検査部門」と「生理機能検査部門」からなります。「検体検査部門」は血液・生化学・微生物検査などを、「生理機能検査部門」は心電図・脳波・呼吸生理・超音波検査などを担当しています。

自治医大附属病院臨床検査部での初期研修の特徴として、「超音波検査研修」があります。研修医は実際に患者さんに探触子をあててまず一人で超音波検査をします。その後すぐに超音波専門医（当院には2人在籍しています。今年度もう1人取得予定です。）が検査をし、その結果をもとに研修医が検査報告書を書き、専門医が内容を確認してからカルテに送信するという、「ダブルチェック体制」をとっています。1人の患者さんの超音波検査に最初から最後まで携わることができるため、1ヶ月間の研修終了時にはある程度腹部超音波検査ができるようになる先生がほとんどです。このような研修は他ではできないものです。

もちろん、そのほかの生理機能検査研修や検体検査研修も可能です。検査部には臨床検査専門医が4人おり、充実した研修ができます。また1ヶ月に1~2回、病態解析についての講義を行っており基本的な血液検査結果の判読方法を学ぶこともできます。（RCPC: Reversed Clinico-Pathological Conference）

後期研修では、臨床検査専門医（日本専門医機構認定）・超音波専門医のダブル取得を目指して研修します。ダブル専門医は検査部に2人在籍しています。さらに講座で行っている研究は、検体を用いた臨床化学的研究、超音波を用いた組織性状評価や細胞への超音波照射の影響の研究などで、学位取得の指導も行っています。



PCR 検査・感染制御や在宅医療における超音波検査など、注目が集まっている臨床検査をぜひ当院で勉強してみませんか？

## 【医師国家試験予想問題】

国家試験で臨床検査の所見は多くの臨床問題で見られますが、臨床検査に特化した問題は少なく、検体検査では採血などのサンプリング、検体の扱い方などが該当します。

### 問題

1. 多種類の採血管に採血し遠心処理したら、溶血が血清で確認され、血漿では確認されなかった。血清中で高値となる可能性のあるのはどれか。2つ選べ。

- a. 間接ビリルビン
- b. ナトリウム
- c. グルコース
- d. カリウム
- e. LD

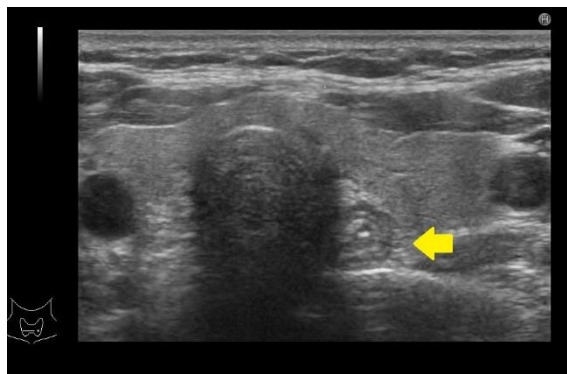
正答：d. e

解説：

一部の検体でのみ溶血が確認されたことは、生体内溶血ではなく、採血の不具合または採血後の不適切な検体取り扱いを示唆する。赤血球内で多いのは、LD とカリウムである。間接ビリルビンは生体内溶血で生成される。

2. 写真は健常人の頸部正中横走査による頸部の超音波像である。矢印（←）で示されるのは何か。

- a. 気管
- b. 舌下腺
- c. 頸部食道
- d. 頸部リンパ節
- e. 左総頸動脈



正答：c

解説：

甲状腺左葉の内側にあり、消化管の層構造が確認できる。頸部食道の所見である。

頸部食道や腹部食道は超音波検査で描出可能であり、頸部食道がんや頸部食道憩室は超音波検査で診断がある程度可能である。

正常構造物の超音波所見を理解していることによって、不必要な追加検査を避けることができる。